

名寄市人口ビジョン（中間報告）

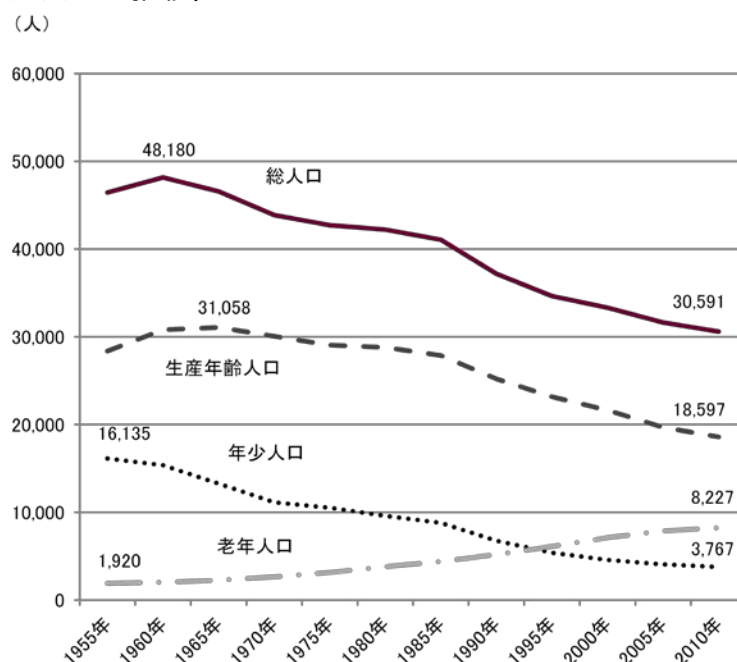
平成 27 年 6 月

- 人口ビジョンは、本市における人口の推移や現状及び将来推計を踏まえ、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの。
- 現在、本市において、人口に関する他自治体との比較やライフステージごとの分析、雇用や就労等に関する分析、通勤・通学や買い物など圏域に関する分析等に加えて、人口減少問題に関する市民アンケート調査や大学生を対象としたアンケート調査を実施しているところ。
- 人口ビジョンにおいて、今後目指すべき将来の方向や人口の将来展望を示すためには、これらの調査結果を踏まえるとともに、今後検討する総合戦略に提示する各施策の効果を反映する必要があることから、総合戦略の策定と併せて人口ビジョンを策定するものとする。
- 本資料については、総合戦略の検討に当たっての基礎資料とするため、本市の人口の現状や今後現状のまま推移すると仮定した場合の人口推計について、中間報告としてとりまとめたもの。

1 総人口と年齢 3 区分別人口の推移

- 名寄市の人口は、1960 年をピークに減少傾向
- 年少人口・生産年齢人口は減少傾向、老年人口は一貫した増加傾向

(図表 I 年齢 3 区分別人口の推移)

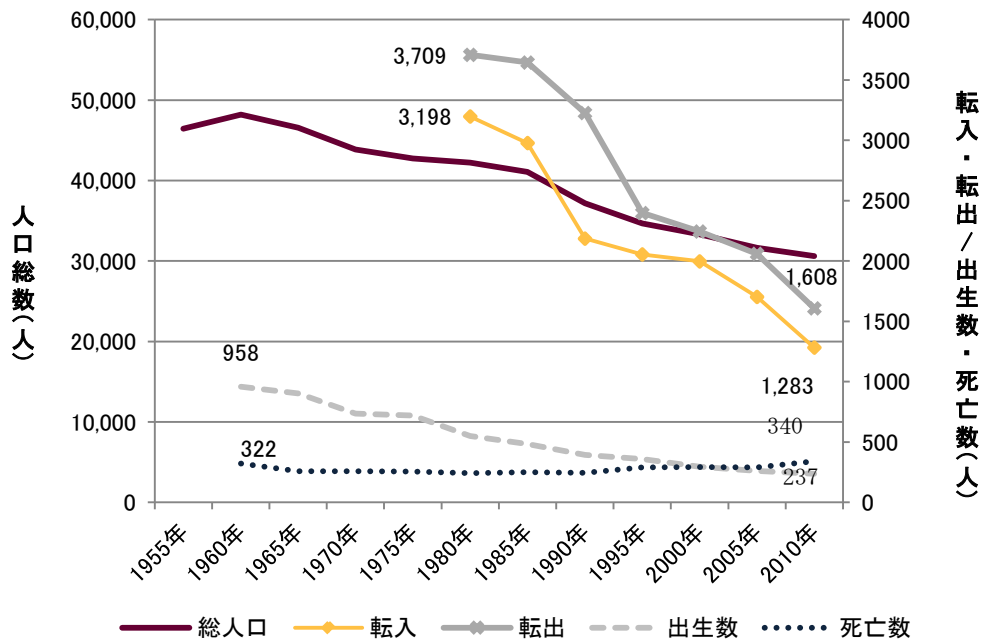


(出典) 国勢調査

2 出生・死亡（自然増減）、転入・転出（社会増減）の推移

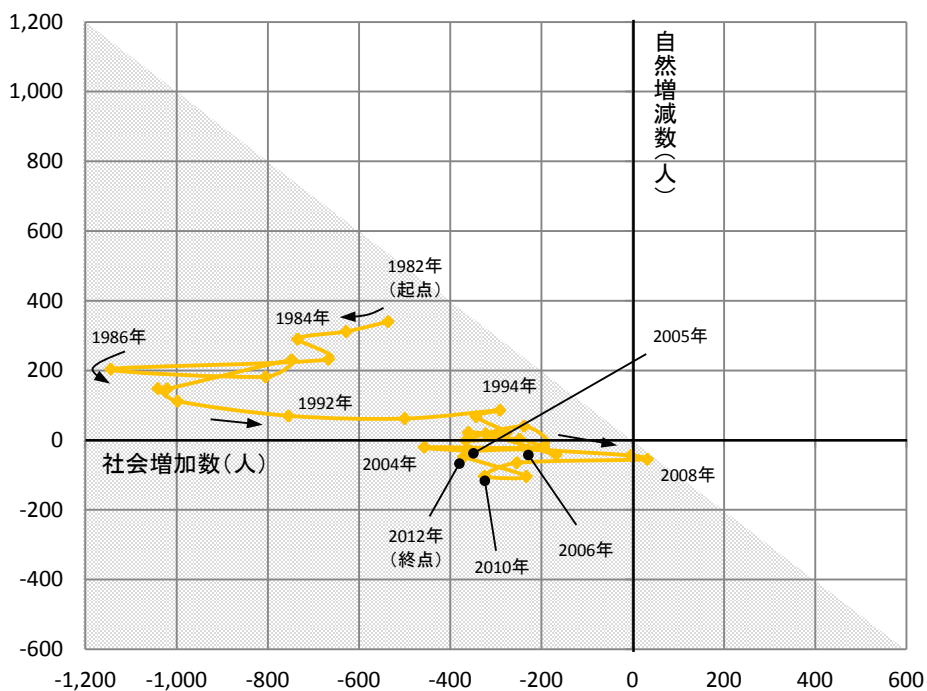
- 自然増減は2002年以降は死亡数が出生数を上回る自然減のまま推移
- 社会増減は近年は転出超過が拡大傾向

(図表Ⅱ-1 出生・死亡数、転入・転出数の推移)



出典) 国勢調査、出生数・死亡数は人口動態保健所・市区町村別統計、転入数・転出数は住民基本台帳に基づき作成

(図表Ⅱ-2 総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響)



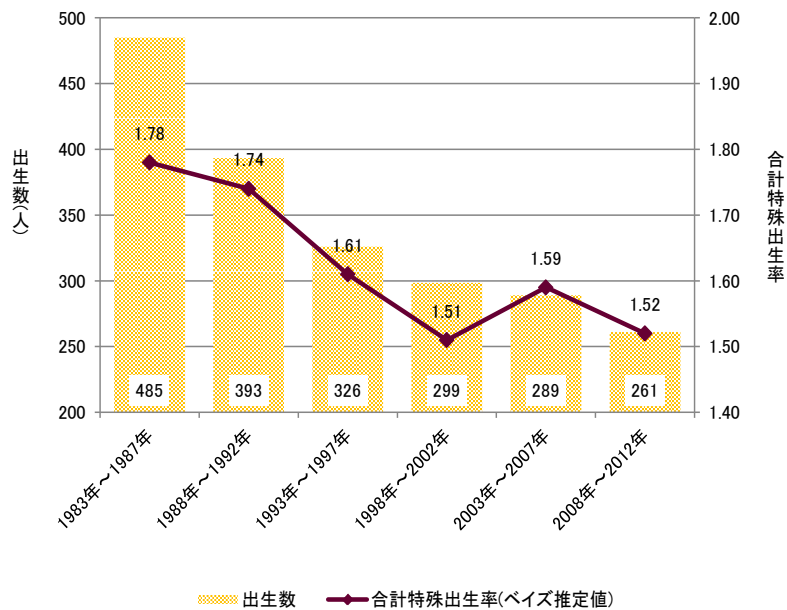
(出典) 自然増減は人口動態保健所・市区町村別統計、転入数・転出数は住民基本台帳に基づき作成

3 人口の自然増減の動向分析

(1) 合計特殊出生率と出生数の推移

- 合計特殊出生率は、1998-2002年に底を打ったものの減少傾向
- 出生数は減少傾向で、1983-1987年平均から半減

(図表Ⅲ-1 合計特殊出生率と出生数(5年平均)の推移)

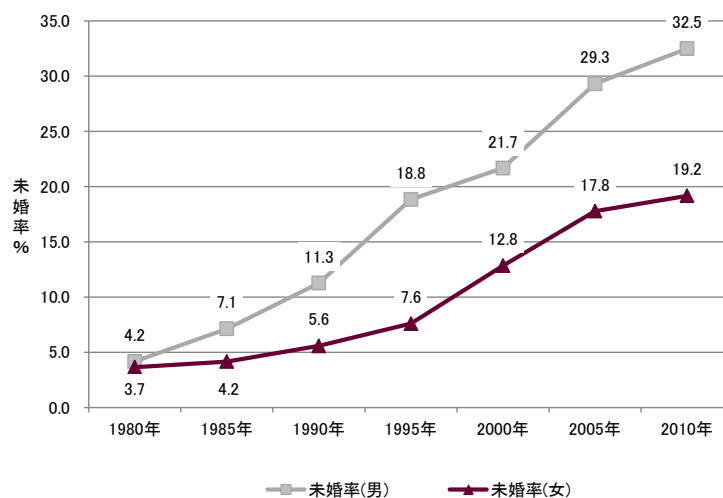


(出典) 人口動態保健所・市区町村別統計より作成

(2) 未婚率及び有配偶率、有配偶出生率の推移

- 35-39歳の未婚率、男女ともに増加傾向

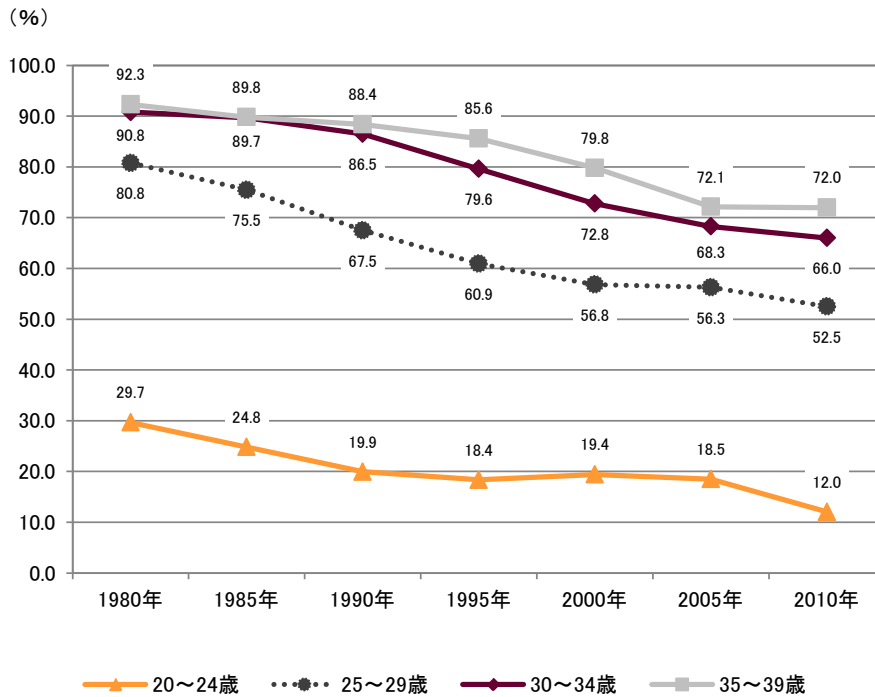
(図表Ⅲ-2-1 未婚率(35-39歳)の推移)



(出典) 国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

○ 年齢階級別の有配偶率は、全国・北海道より高い 各年代で大幅に低下

(図表Ⅲ-2-2 年齢階級別の有配偶率の推移)



(出典) 国勢調査より作成

(図表Ⅲ-2-3 年齢階級別の有配偶率の比較)

男性

		全体	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	1980年	67.6	0.3	8.1	44.1	77.0	89.4
	2010年	59.9	0.3	5.5	26.2	49.0	59.4
北海道	1980年	69.7	0.5	11.9	53.4	81.8	91.1
	2010年	61.5	0.3	6.4	28.6	50.0	59.4
名寄市	1980年	70.8	0.3	9.5	57.8	86.4	93.6
	2010年	64.3	-	7.4	35.3	54.6	64.4

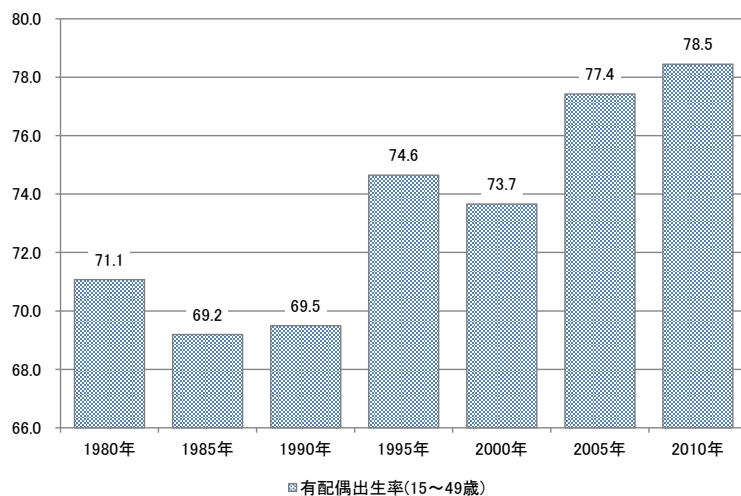
女性

		全体	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全国	1980年	64.0	0.9	21.9	74.5	88.0	90.2
	2010年	55.9	0.6	9.3	36.2	59.7	68.6
北海道	1980年	65.0	1.4	25.4	73.2	86.5	89.2
	2010年	54.2	0.6	10.3	36.4	57.1	63.8
名寄市	1980年	67.7	0.8	29.7	80.8	90.8	92.3
	2010年	57.0	0.1	12.0	52.5	66.0	72.0

(出典) 国勢調査より作成

○ 15-49歳の有配偶出生率は、1980年より回復 1995年から回復傾向

(図表Ⅲ-2-4 15-49歳の有配偶出生率の推移)



(出典) 国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

有配偶出生率：出生数／各年の15歳～49歳の女性の有配偶者により算出

○ 5歳階級の有配偶出生率は、全国より低く、北海道より高い 25-29歳を除き回復し、35-39歳で倍増

(図表Ⅲ-2-5 5歳階級の有配偶出生率)

		(人口千対)				
		全体	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全 国	2000年	77.2	360.3	230.5	136.3	40.6
	2010年	81.5	399.2	248.1	161.8	68.0
北海道	2000年	67.2	331.5	203.8	119.1	35.9
	2010年	74.7	378.8	226.7	143.6	60.0
名寄市	2000年	73.7	364.6	211.6	97.8	36.5
	2010年	78.5	365.6	182.0	148.1	54.6

(出典) 国勢調査、人口動態保健所・市区町村別統計より作成

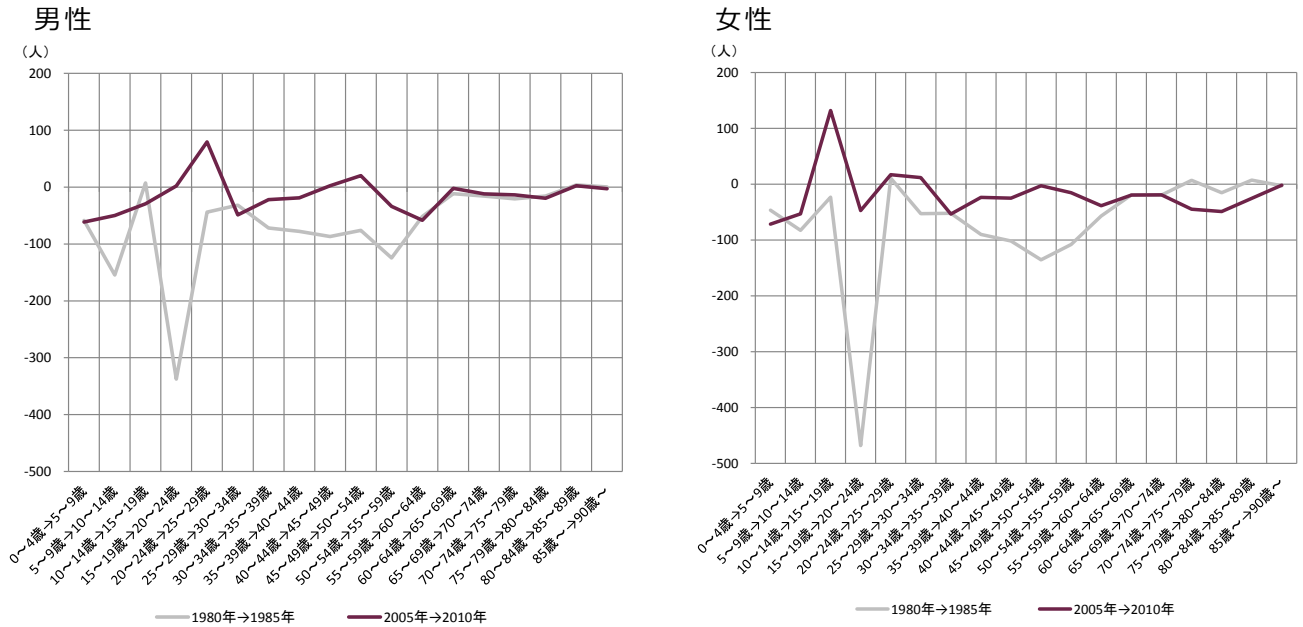
有配偶出生率：出生数／各年の15歳～49歳の女性の有配偶者により算出

4 人口の社会増減の動向分析

(1) 年齢5階級別の人口移動の推移

○ 1980-1985年と2005-2010年の年齢階級別純移動数を比較すると、全体的に転出超過が改善 特に若年層の転出超過が大幅に改善

(図表IV-1 年齢階級別の人口移動の推移)

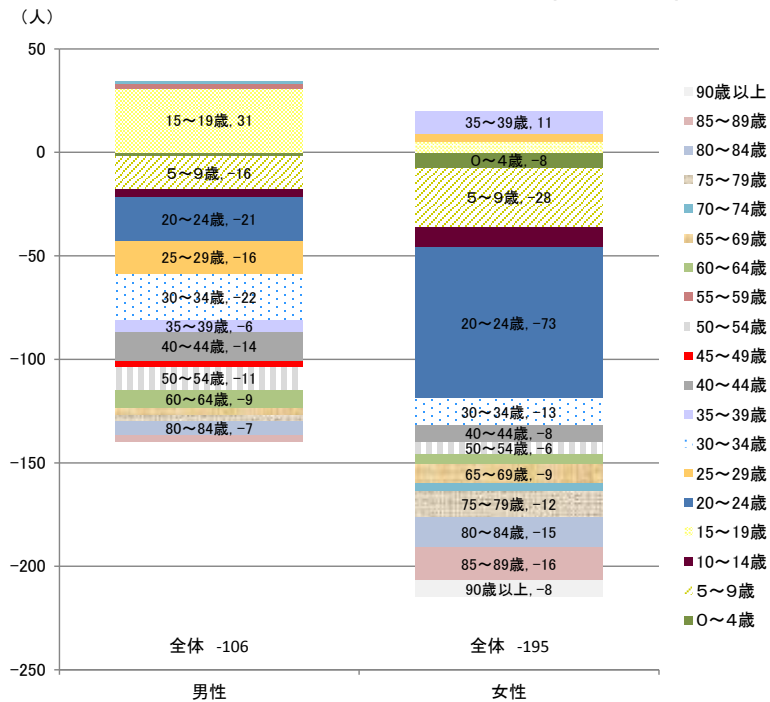


(出典) まち・ひと・しごと創生本部事務局より提供されたデータより作成

(2) 年齢5階級別の人口移動の状況

○ 男女ともに、15-19歳は転入超過であるが、全体として転出超過
○ 男女ともに、20-24歳が最大の転出超過

(図表IV-2 2013年の年齢階級別の人口移動(転入-転出)の状況)

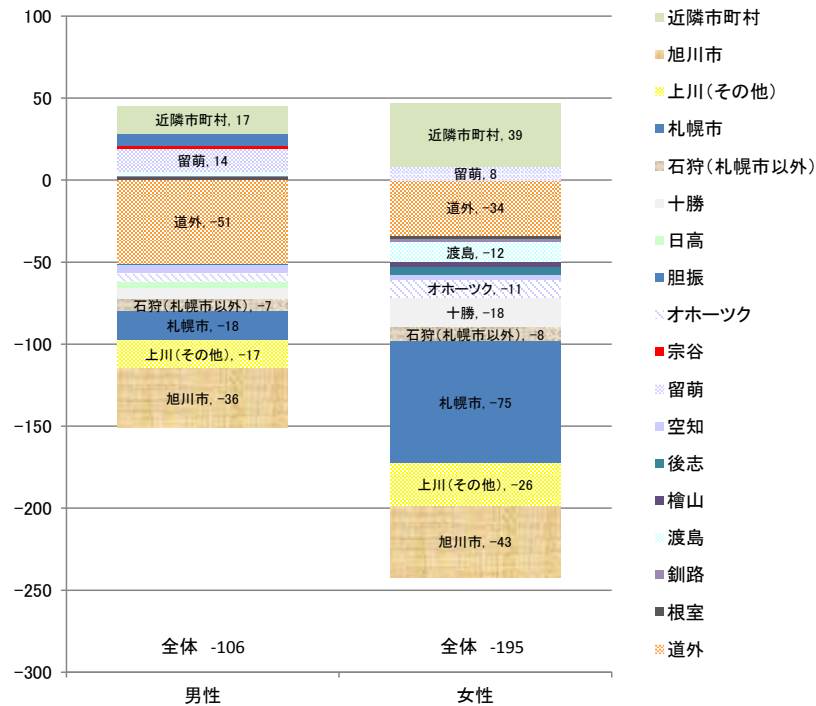


(出典) 住民基本台帳より作成

(3) 地域別の人口移動の状況

- 男女ともに、近隣市町村及び留萌ブロックから転入超過
- 男性は道外、女性は札幌への転出超過が最大

(図表 IV-3 地域ブロック別の人口移動(転入-転出)の状況)
(人)



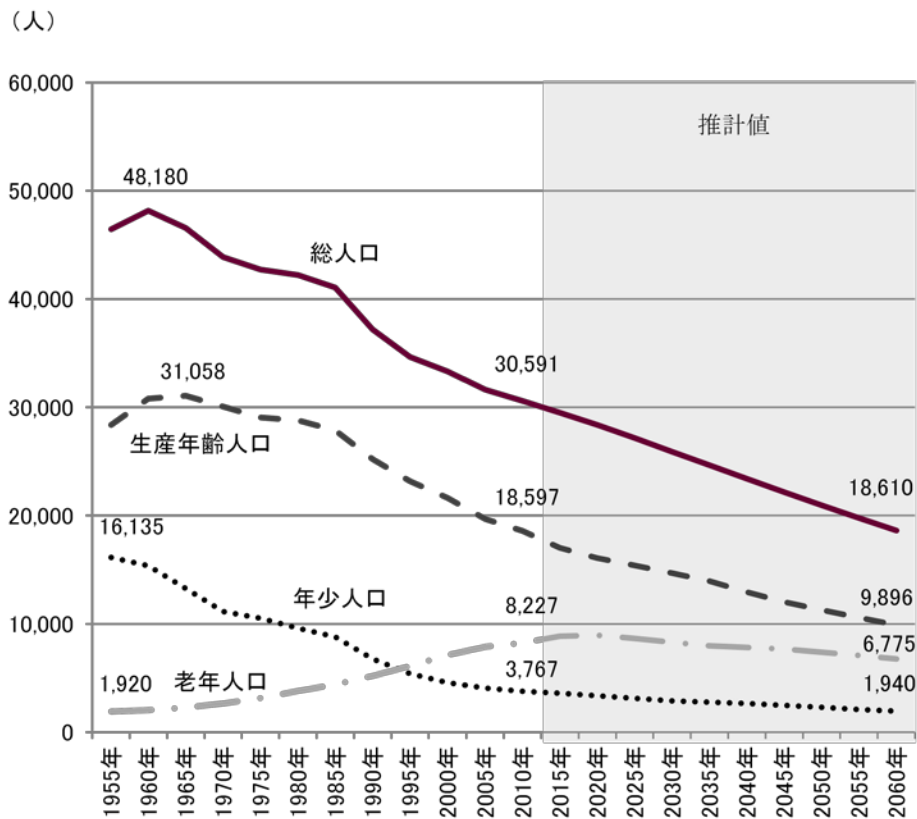
・近隣市町村：士別市・和寒町・剣淵町・下川町・美深町・音威子府村・中川町・幌加内町
 ・上川(その他)：富良野市・鷹栖町・東神楽町・当麻町・比布町・愛別町・上川町・東川町・美瑛町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・占冠村
 (出典) 住民基本台帳より作成

5 人口の将来推計

(1) 総人口と年齢3区分別人口の将来推計

- 名寄市の人口は、2060年には18,610人に減少
- 名寄市の高齢化率は、2060年には36.4%に上昇

(図表 V-1-1 年齢3区分別人口の推移 (1955-2060))



(出典) 2010年までは国勢調査(合併も考慮)、2015年以降は「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)に基づき作成。

※社人研の推計では2040年までとなっており、それより先の年次の推計については諸率(生残率、純移動率等)をそのまま用いて推計した。

(図表 V-1-2 年齢3区分人口シェア率の推移)

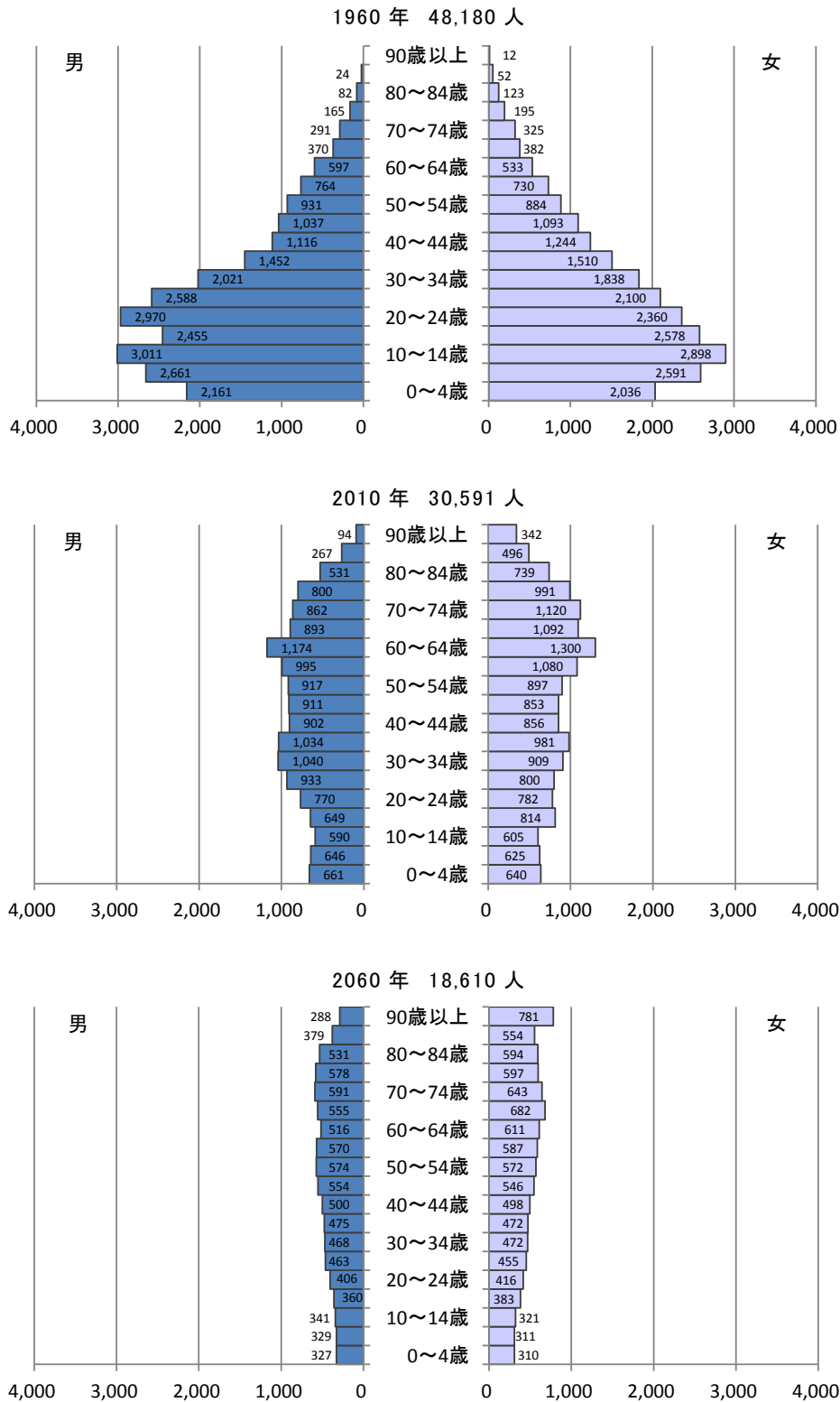
単位(人)

	1960年		1980年		2010年		2040年		2060年	
総数	48,180	100.0%	42,222	100%	30,591	100%	23,413	100%	18,610	100%
年少人口	15,358	31.9%	9,609	22.8%	3,767	12.3%	2,643	11.3%	1,940	10.4%
生産人口	30,801	63.9%	28,810	68.2%	18,597	60.8%	12,931	55.2%	9,896	53.2%
老年人口	2,021	4.2%	3,803	9.0%	8,227	26.9%	7,839	33.5%	6,775	36.4%

(2) 人口構造の変化

○ 人口減少が進行する中、人口構成が大きく変化

(図表V-2 1960年、2010年、2060年の人口ピラミッド比較)



(出典) 2010年までは国勢調査(合併も考慮)、2040年は「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)に基づき作成